# 腫 瘍 内 科 学
## （旧・内科学第一講座）

横須賀　收

旧内科学第一講座は1922年４月，本医学部前身の千葉医科大学昇格以後，竹村正（－1934年），石川憲夫（1934－55年），三輪清三（1955－69年），奥田邦雄（1971－87年），大藤正雄（1987－95年），税所宏光（1995－2007年）の各教授に引き継がれ，2007年からは横須賀收により，運営されている。平成13年の，千葉大学医学部の改組に伴い，旧内科学第一講座から腫瘍内科学教室に名称の変更が行われた。また平成16年には，国立千葉大学から独立行政大学法人となった。

奥田邦雄教授在任中の1975年までは，「千葉大学医学部100周年記念誌」に述べられているので，本稿では，1975年以降，2010年までの35年間の歩みについて記述する。

この間，教室の研究領域は消化器病学，腎臓病学，血液病学，神経内科学など，多岐にわたり，それぞれの領域において多くの有為の人材を輩出してきた。また，専門分化，統合により，教室の研究テーマには変遷がみられる。

奥田邦雄教授時代には，肝臓疾患に関して，肝癌の臨床研究が精力的に行われ，また大藤正雄助教授，土屋幸浩講師，税所宏光講師らのグループによる経皮経肝胆管造影術，超音波などの画像診断技術の導入，また小藤田和郎助教授，武者廣隆講師らによる経皮経肝門脈造影術を用いた門脈圧亢進症の研究が行われた。また，伊藤進講師らは組織病理による各種肝疾患の診断を行ない，非アルコール性脂肪肝炎などに先駆的業績を残している。また，小俣政男講師により分子生物学的研究の臨床研究への応用に取り組んだことが特筆される。

また血液疾患に関しては，山口覚太郎講師，米満博講師により赤血球系の血液疾患，内山幸弘講師によりビタミン$B_{12}$の研究が行われた。

腎疾患に関しては東條静夫助教授，成田光陽講師，若新政史講師らにより，腎疾患の臨床，その免疫学的発生メカニズムが研究された。東條静夫助教授の筑波大学教授就任に伴い教室の腎臓グループの過半が異動された。

また，神経疾患は渡辺誠介講師により，神経筋疾患の研究が行われた。千葉大学の神経内科の創設により，神経内科グループは神経内科に異動された。

### 昭和50年
- 大塚文郎先生（昭３卒）が千葉大学同窓会長に就任。
- ４月，腎臓病学グループを率いてこられた，東條静夫助教授が筑波大学内科教授に就任。
- 12月，小幡裕先生（昭28卒）が東京女子医科大学消化器内科教授に就任。

### 昭和51年
- ４月，肝臓生化学グループの小藤田和郎講師が助教授に昇任。
- ４月，血液内科グループで，先天性ヘモグロビン赤血球異常などの研究をされた山口覚太郎講師が千葉大学看護学部教授に就任。

### 昭和52年
- ４月，ネフローゼ症候群の研究をされていた成田光陽講師が筑波大学に異動，臨床医学系助教授に就任。
- ５月，谷川久一先生（昭32卒）が久留米大学医学部第二内科教授に就任。
- 12月，奥田邦雄教授が第280回日本内科学会関東地方会を主催。

### 昭和53年
- ４月，千葉大学に神経内科学教室が創設され，渡辺誠介講師が神経内科助教授に就任。神経内科グループは神経内科学教室に移行した。
- ６月，奥田邦雄教授が第14回日本肝臓学会総会の会長を務める。
- ７月，間質性腎炎の免疫学的機序を研究されてきた若新政史助手が講師に昇任。
- ７月，肝臓の病理組織学の研究をされていた伊藤進講師が埼玉医科大学内科教授に就任。
- ８月，大藤正雄講師が第14回胆道疾患研究会の会長を務める。

### 昭和54年

- 腎不全の病態と治療を研究された土屋尚義講師が千葉大学教育学部教授に就任。
- 肝臓生化学グループで経皮経肝門脈造影術などの研究をされていた武者廣隆助手が講師に昇任。

### 昭和55年

- 11月，奥田邦雄教授がシカゴにて1980年国際肝臓学会会長を務める。

### 昭和56年

- ４月，小藤田和郎助教授が千葉県立衛生短期大学教授に就任。
- ４月，大藤正雄講師が助教授に昇任。
- ８月，胆膵十二指腸の放射線診断の大野孝則助手が講師に昇任。
- ８月，血液内科グループの米満博助手が講師に昇任。
- 11月，超音波画像疾患により胆石症などの研究をされた土屋幸浩助手が講師に昇任。
- 福永和雄先生（昭24卒）がキッコーマン総合病院院長に就任。
- 高相豊太郎先生（昭28卒）が清水厚生病院院長に就任。

### 昭和57年

- ２月，奥田邦雄教授が香港にて第２回アジア太平洋肝臓学会の会長を務める。
- ５月，奥田邦雄教授が第34回日本ビタミン学会大会の会長を務める。
- 有賀光先生（昭23卒）が国立習志野病院院長に就任。
- 栗原稔先生（昭36卒）が昭和大学医学部附属豊洲病院教授に就任。

### 昭和58年

- ４月，糖尿病性腎症を専攻されてきた廣瀬賢次講師が図書館情報大学保健センター教授に就任。
- ８月，内視鏡的逆行性胆管膵管造影など膵画像診断の研究をされた税所宏光助手が講師に昇任。
- 三輪清三名誉教授が君津中央病院名誉院長となる。

### 昭和59年

- ４月，真性多血症などの骨髄増殖性疾患を研究されていた米満博講師が千葉大学医学部附属病院中央検査部助教授に就任。
- ５月，肝炎の分子生物学，肝病理組織を研究されてきた小俣政男助手が講師に昇任。
- ７月，奥田邦雄教授が第17回日本門脈圧亢進症研究会の会長を務める。
- 10月，奥田邦雄教授が第26回日本消化器病学会大会の会長を務める。
- 10月，大藤正雄助教授が日本膵臓病研究会第15回秋季大会の会長を務める。
- 10月，徳弘英生先生（昭24卒）が北里大学医学部内科学教授に就任。

### 昭和60年

- １月，奥田邦雄教授が第４回日本臨床画像医学研究会の会長を務める。

### 昭和61年

- 大久保春男先生（昭28卒）が船橋中央病院院長に就任。
- 鈴木治男先生（昭41卒）が多古中央病院院長に就任。
- ９月，奥田邦雄教授がサンパウロで開かれた第八回世界消化器病学会の名誉会長に選出される。

### 昭和62年

- ３月，奥田邦雄教授退官記念式典。
- ４月，奥田邦雄前教授が名誉教授となる。
- ８月，大藤正雄助教授が教授に就任。
- 10月，血液内科のビタミン$B_{12}$結合蛋白の研究を行っていた近藤春樹助手が講師に昇任。
- 10月，奥田邦雄名誉教授が第29回日本臨床血液学会総会の会長を務める。

大藤正雄教授時代には胆膵を中心とした画像診断が特に重点をおいて研究された。第14回日本胆道学会会長，第15回日本膵臓学会会長，第６回日本臨床胆汁酸研究会を主催。税所助教授は内視鏡的膵管造影，江原講師はエタノール注入療法による肝癌の治療の研究を行った。小俣講師は肝炎の分子生物学的病態解明，肝癌の発生メカニズムの研究により，東京大学第二内科教授に招聘され，横須賀講師が引き続き肝疾患の研究を行った。上田志朗講師は薬剤性腎疾患，近藤春樹講師はビタミン$B_{12}$の代謝を研究した。

### 昭和63年

- 大藤正雄教授が第６回日本臨床胆汁酸研究会の会長を務める。

### 平成元年

- 米満博千葉大学附属病院検査部助教授が教授に就任。
- 寺澤捷年先生（昭45卒）が富山医科薬科大学医学部和漢診療部教授に就任。
- ９月，三輪清三名誉教授が逝去。

### 平成２年

- 森博志先生（昭31卒）が国立千葉病院院長に就任。
- 朝比奈信武先生（昭45卒）が多古中央病院院長に就任。
- ２月，若新政史講師が千葉大学医学部卒後・生涯医学臨床研修部教授に就任。
- ４月，肝癌のエタノール治療を研究されていた江原正明助手が講師に昇任。
- ４月，薬剤性腎障害を研究されていた上田志朗助手が講師に昇任。
- ４月，肝生化学グループの飯田眞司助手が検査部講師に就任。
- ５月，税所宏光講師が助教授に昇任。
- 12月，大藤正雄教授が第212回日本消化器病学会関東支部例会の会長を務める。

### 平成３年

- ５月，大藤正雄教授が第２回胆石破砕療法世界会議，第３回消化器体外衝撃波療法研究会の会長を務める。
- 10月，久満董樹先生（昭40卒）が東京女子医科大学消化器内科教授に就任。

### 平成４年

- ４月，小俣政男講師が東京大学医学部第二内科教授に就任。
- ４月，御園生正紀先生（昭41卒）が千葉県立衛生短期大学教授に就任。
- ４月，小山哲夫先生（昭43卒）が筑波大学臨床医学系内科教授（腎臓内科）に就任。
- ５月，ウイルス性肝炎の研究を行ってきた横須賀収助手が講師に昇任。
- ６月，大藤正雄教授が第28回日本肝癌研究会の会長を務める。

### 平成５年

- ２月，大藤正雄教授が腹部超音波カラードプラ千葉国際シンポジウムの会長を務める。
- 米満博附属病院検査部教授が医学部臨床検査医学講座教授となる。
- 荒木英爾先生（昭34卒）が埼玉県立衛生短期大学教授に就任。
- ４月，林直諒先生（昭38卒）が東京女子医科大学消化器内科主任教授に就任。
- 長尾啓一先生（昭47卒）が千葉大学教授保健管理センター長に就任。
- 11月，大藤正雄教授が日本超音波医学会第63回研究発表会の会長を務める。
- 11月，大藤正雄教授が第28回日本肝臓学会東部会の会長を務める。
- 11月，大藤正雄教授が第６回肝画像診断研究会の会長を務める。

### 平成７年

- ２月，大藤正雄教授の最終講義。
- ３月，大藤正雄教授退官記念式典。
- ４月，五十嵐正彦先生（昭34卒）が国立習志野病院院長に就任。
- ６月，土屋幸浩講師が国保大網病院院長に就任。
- ９月，税所宏光助教授が教授に就任。
- 12月，門脈圧亢進症，食道静脈瘤治療の研究を行ってきた松谷正一助手が講師に昇任。

税所宏光教授時代には胆道疾患，膵臓病，肝癌を中心に診療，研究が行われた。江原正明助教授，杉浦信之講師，吉川正治講師が肝癌の治療法の研究などを行った。山口武人講師は内視鏡的膵癌の診断，化学療法による治療を行った。肝炎に関しては，横須賀収講師，今関文夫講師が，インターフェロン治療，C型肝炎ウイルス排除による肝癌の抑制効果を示した。門脈圧亢進症に関しては，松谷正一講師らが内視鏡的食道静脈瘤結紮療法・食道静脈瘤硬化療法を行った。腎臓に関しては，小川助手らにより，膠原病性腎症など，腎疾患の免疫学的発生機序の研究が行われた。血液に関しては，井関助手などにより造血細胞移植により白血病の治療が推進された。

### 平成８年

- ４月，血液グループの内山幸信先生（昭43卒）が北里大学医学部臨床病理学教授に就任。
- ６月，江原正明講師が助教授に昇任。
- ６月，肝炎の病態と治療を研究していた今関文夫助手が講師に昇任。

### 平成９年

- 三木亮先生（昭38卒）が国立横浜病院院長に就任。

- 武者廣隆先生（昭40卒）が国立千葉病院院長に就任。
- 栃木捷一郎先生（昭44卒）が東京都立保健科学大学内科学教授に就任。
- ４月，上田志朗講師が千葉大学薬学部医療薬学専攻医薬品情報学教授に就任。
- ４月，佐藤重明先生（昭35卒）が鹿島労災病院院長に就任。
- ５月，杉浦信之助手が講師に昇任。

### 平成11年

- 谷川久一先生（昭32卒）が国際肝臓研究所理事長に就任。
- 久満董樹先生（昭40卒）が社会保険船橋中央病院院長に就任。
- 野村文夫先生（昭50卒）が千葉大学医学部臨床検査医学講座教授に就任。

### 平成12年

- 福山悦男先生（昭36卒）が君津中央病院院長に就任。

### 平成13年

- ４月，千葉大学医学部が改組されるにあたって，内科学第一講座は腫瘍内科学教室に名称を変更した。
- ４月，青柳一正先生（昭46卒）が筑波技術短期大学教授に就任。
- 10月，税所宏光教授が日本超音波医学会関東甲信越地方会第13回学術集会の会長を務める。
- 11月，奥田邦雄名誉教授の傘寿と出版記念会。

### 平成14年

- 横須賀收講師が肝胆膵重粒子線治療学講師を兼任。
- 村松正明先生（昭57卒）が東京医科歯科大学難治疾患研究所分子疫学研究部教授に就任。
- 10月，税所宏光教授がDDW Japan 2002で第64回日本消化器内視鏡学会総会の会長を務める。

### 平成15年

- ２月，奥田邦雄名誉教授が逝去。
- ３月，奥田名誉教授をしのぶ会。
- ５月，膵腫瘍の画像診断研究を行ってきた，山口武人助手が講師に昇任。
- ７月，税所宏光教授が第34回日本膵臓学会大会の会長を務める。
- 唐沢英偉先生（昭46卒）が国際医療福祉大学熱海病院消化器内科教授に就任。

### 平成16年

- ４月，千葉大学は国立大学から国立大学独立行政法人になった。
- ４月，五月女直樹先生（昭49卒）が埼玉厚生連熊谷総合病院の院長に就任。

### 平成17年

- ４月，寺澤捷年先生（昭45卒）が千葉大学大学院医学研究院和漢診療学教授に就任。
- ６月，小山哲夫先生（昭43卒）が茨城県立医療大学学長に就任。
- ７月，税所宏光教授が独立行政法人放射線医学総合研究所重粒子がん治療臨床研究班膵腫瘍臨床研究班の班長に就任。

### 平成18年

- ２月，税所宏光教授最終講義。
- ３月，税所宏光教授退任。
- ４月，松谷正一講師が千葉県立衛生短期大学看護学科教授に就任。
- ４月，肝画像診断，肝癌治療を専攻の吉川正治助手が講師に昇任。
- 税所宏光教授，化研病院院長に就任。
- 11月，横須賀收講師が教授に就任。
- 12月，吉川正治講師が肝胆膵重粒子線治療学講師を兼任。

横須賀收教授就任後，肝炎・肝癌の治療・研究の推進がなされている。特に，吉川正治講師，金井文彦講師，丸山紀史助教らによるソナゾイド造影超音波やEOB MRIによる肝癌の診断，ラジオ波による肝癌焼灼や分子標的薬を用いた肝癌の治療，肝動脈化学塞栓療法などが行われている。肝炎に関しては，今関文夫講師，神田達郎特任講師によりインターフェロン・リバビリン併用治療，肝炎の病態の治療が行われている。また，消化管疾患に関しては，新井助教を中心とし，カプセル内視鏡，消化管ホルモンの研究，またESDやEMRによる胃腫瘍，大腸腫瘍の治療が行われている。また，胆道疾患に関しては，露口利夫講師により，砕石術による治療が行われている。また，膵に関しては，石原武助教により超音波内視鏡を用いた診断や化学療法による治療，自己免疫性膵疾患の診断や治療がなされている。2010年４月からは細胞治療学（旧第二内科）の

消化管グループと合流し，勝野達郎助教を中心に炎症性腸疾患の研究も推進されている。また，腎に関しては，小川真講師による慢性腎疾患の病態の解明と治療が行われている。

### 平成19年

- １月，慢性腎臓病（CKD）の病態を研究してきた小川真助手が講師に昇任。
- 小川真講師が腎臓内科科長に就任。
- ４月，一戸彰先生（昭45卒）が上都賀病院院長に就任。
- 吉田孝宣先生（昭46卒）が国立病院機構下志津病院院長に就任。
- ５月，横須賀收教授が第33回日本急性肝不全研究会会長を務める。
- ６月，胆道鏡，ERCPなど胆石，胆道癌など胆道疾患を専攻してきた露口利夫助手が講師に昇任。
- 11月，今関文夫講師が准教授に昇任。

### 平成20年

- ３月，古瀬純司先生（昭59卒）が杏林大学医学部内科学腫瘍科教授に就任。
- ９月，金井文彦先生（昭63卒）が東大より帰局し，附属病院消化器内科講師に就任。
- 10月，田川まさみ先生（昭56卒）が鹿児島大学大学院医歯学教育開発センター教授に就任。
- 12月，横須賀收教授が第302回日本消化器病学会関東支部例会の当番会長を務める。
- 12月，神田達郎元助手が米国より帰国，テニユアトラック特任講師就任。

### 平成21年

- 江原正明先生（昭49卒）が松戸市立病院院長に就任。
- 永田勝太郎先生（昭52卒）が日本薬科大学統合医療センター教授に就任。
- ４月，横須賀收教授が光学医療診療部長兼任。

### 平成22年

- １月，近藤福雄先生（昭54卒）が帝京大学医学部病理学講座教授に就任。
- ４月，細胞治療学（旧第二内科）の消化管グループと合流。
- ４月，小俣政男先生（昭45卒）が山梨県立病院理事長に就任。
- ５月，小川真講師が附属病院診療教授に就任。
- ６月，造血細胞移植治療を行ってきた井関徹講師が附属病院輸血部長に就任。
- 12月，横須賀教授がAPASL 7th Single Topic Conference の会長を務める。

文末になるが，千葉県内の私立病院長・理事長として，武田従信（昭和33卒），谷嶋俊雄（昭和34卒），谷嶋つね（昭35卒），松村康一（昭和36卒），渡辺道典（昭和42卒）先生をはじめ多くの方々が活躍されている。

また，旧第一内科に在籍し多大な貢献をされた女性医師としては，成田静子（昭35卒），米満道子（昭39卒），本村八恵子（昭39卒），若新洋子（昭41卒），小林千鶴子（昭41卒），和泉佳子（昭43卒），伊藤よしみ（昭和48卒），森順子（昭51卒）の各先生方がおられる。

（よこすか　おさむ）